

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム千代原口(1F)		
所在地	京都市西京区御陵谷町29-2		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的にボランティアの方が来ていただき、ちぎり絵を一緒にしたり、地域の小学校の運動会、夏祭り、地藏盆等に利用者様と参加し、地域との関わりを大切にしている。また、利用者様と一緒にペランダのプランターにて家庭菜園をして楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は常に笑顔とまごころで関わっていく事を理念に掲げて理念に沿った取り組みに努め、自分なら入居したいか親なら喜ぶかを考え、利用者の立場に立った支援を展開しています。利用者の生き甲斐に繋がる生活を個別レクリエーションに繋げ、利用者一人ひとりの力に応じて食事の準備や調理、片づけなど、それぞれに役割を持つ事を大切に支援しています。地域の人との繋がりに力を入れ、日々の散歩で挨拶を交わし、定期的なお茶会がボランティアの力で継続され、消防署、交番等との交流も行っています。事業所の安全面に配慮し、戸締りやセンサーを設置していますが、それに頼るのではなくセンサーを外して施錠をしない時間を増やすなど、自由な暮らしを提供できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示しており、日頃から意識をするようにしている。	法人の理念を基に事業所の理念を作成し玄関に掲示しています。出勤時に黙読しカンファレンス時に唱和して理念の理解に努めています。職員は自分の家族を預けたい、自分も入居したいホームに成っているかを常に意識して確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会や、地藏盆等イベントに参加し、地域とのつながりを大事にしている	自治会に入り回覧板や自治会長から地域行事などの情報を貰い、区民運動会や夏祭りに参加しています。隣近所とは顔を合わせたら挨拶を交わしたり、近隣の方とは駐車場を借りたり、七夕の笹や花を貰う等日常的に交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症サポーター講座を地域の方対象に行なっている。今年は12月に予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者家族の方、消防、警察の方等を招き、報告、意見の交換等、行なっている。	会議は家族代表、自治会長、消防署や警察の署員、地域包括支援センター職員などのメンバーで構成し、隔月に開催して近況報告や意見交換をしています。会議の中で薬の管理や猿の被害日についての意見やアドバイスがあり、職員間で話し合い改善に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記の通り、2ヶ月に1回運営推進会議を開き、その際、意見の交換、報告等を行なっている。	毎月開催される事業所連絡会などで市職員との情報交換の機会があり、意見交換をしています。区の担当課には運営推進会議の議事録を持参して直接手渡したり、電話でも連絡を取り合うなど協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不審者が出現した事もあり、玄関は施錠しているが、時間を決めなるべく開けるようにしている。	法人研修で身体拘束をしないケアを学び、職員で話し合い正しく理解出来る様にしています。言葉の抑制も含め気になる職員の言動はその場で管理者が注意をしたり会議で話し合っています。玄関の施錠も拘束に当たる事を職員は理解し、利用者の出掛けたい素振りの時は否定はせず一緒に出掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修等に参加し学ぶ機会を持っている。		

洛和グループホーム千代原口(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ面会時に実際にお会いし、書類と照らし合わせ、できるだけ分かり易く説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見交換、家族様へのアンケート実施等行なっている。また、玄関先に意見箱を設置し、いつでも意見を表せる機会を設けている。	面会やケアプランの見直しの時に希望を用紙に記入して貰ったり、電話や年2回の満足度調査でも意見を聞いています。家族の意見を受けて、職員間で検討し清掃の仕方を見直すなど改善に向けて取り組み、家族にはその旨報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対するアンケートを行なっている。	会議では活発に意見交換をがなされ、申し送りノートや年2回の個人面談でそれぞれの意見を聞いています。会議の中で清掃面やごみ出しの方法の意見が出され、皆で話し合い改善する等、職員の提案を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課等行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修参加の参加に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへ研修、見学等の機会があり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人様に聞き取りを行い、入所後も本人様のご要望、思いに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様も同じく入所前に聞き取りを行い、入所後もご要望、思いに寄り添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、色々な選択肢を提供、説明等行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様の家にお邪魔しているという感覚を忘れず、常に尊厳の気持ちを持ち接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、必要時、協力を仰ぎ、利用者様と共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から馴染みである人達や、場所に定期的に行って喜んでいただいている。	電話や手紙のやり取りの支援を行い、友人や知人の来訪時には会話が弾み関係が継続するようにしています。墓参りの希望には家族に連絡を取り一緒に行ったり、1年に1回それぞれの馴染みの場所や行きたい所に行けるよう個別支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にちぎり絵を作ったり、協力してお手伝い等をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お電話等でご相談があった時は、分かる範囲で相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者様や家族様から情報収集し、ニーズを把握しアセスメントしている。	契約時に本人・家族の意向や希望を聞き、日々のケアの中でも言葉を聞き取ったり生活の様子などを24時間のケア記録に記入するなど意向の把握に努めています。聞き取りの困難な時は職員の気付きを申し送りノートに記入し会議で話し合い本人本位となるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者様や家族様から生活歴や生活環境等の情報収集し、今までの生活を少しでも尊重できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを行い、利用者様の状態に変化があればその都度話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記の通りカンファレンスを定期的に行い、利用者様の状態について話し合っている。また、家族様にはその都度ご要望をお聞きしている。	介護計画はアセスメントを基に作成され、3ヶ月ごとにモニタリングを行い6ヶ月ごとの見直しに繋げ状況によっては随時見直しています。欠席職員の意見も参考に全職員で支援の方向性を話し合っています。家族の意見は希望記入用紙に記入して貰ったり電話で訊ね、医師の指示書等も貰い、計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録にはもちろん、何か特記事項があれば申し送りノートに記載したり、口頭で伝達するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院を母体とし、訪問看護、居宅介護支援事業所等と連携し、事業所の多機能を活かした支援をしている。		

洛和グループホーム千代原口(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの行事の際、ボランティアの方をお呼びし、お茶会を開いていただいたり、利用者様によるピアノ演奏会を企画し、いい関係性が築けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様のご希望に沿った医療を受けられるように支援している。	契約時にかかりつけ医の継続が可能である事を説明し、希望に添った医療を受けてもらっています。継続された医療への受診は家族の同行を基本としており、協力医へは職員が同行し、それぞれに情報交換を行っています。訪問看護師は週1回利用者の健康管理を行い、協力医は月2回往診があり、緊急時は24時間の対応可能で適切な医療が受けられる支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に何か特変があれば、すぐに訪問看護師、往診医の方に連絡、相談をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	病院の相談員、病院のNs、Drに密に連絡を取り合い、今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Ns、Drとの連携をとり、家族様には十分説明をしていく。	入居時に利用者・家族には事業所の看取りの指針を説明して同意を得ています。重度化など状態の変化があれば、家族、医師も交え話し合い再度意向を確認しています。職員は研修で学ぶと同時に、様々な場面を想定して話し合い、看護師に24時間連絡が取れるよう体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署をお呼びしての消防訓練を行っており、万一に備えている。	年2回消防署の立会いのもと昼夜想定訓練を行うと共に、事業所独自で消防機器や非常袋の確認などの自主訓練を隔月に行っています。訓練は運営推進会議の後で引き続き行い、近隣には口頭で知らせています。消防署主催の地域防災訓練にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を傷つけないような言葉かけをするように心がけている。	事業所では、利用者には尊厳の気持ちを持って接し、呼びかけ方や声の大きさに気を配り、馴れ馴れしくなり過ぎないよう心がけています。法人研修を行い接遇について学び、伝達研修をして職員の意識を高めています。羞恥心に留意し排泄時や更衣の場所等配慮するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の衣服の選択、食事の選択等、できるだけ自己決定をしていただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員のペースではなく、ゆっくりでも利用者様のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様に毎日の衣服の選択、髪型等、みだしなみをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にメニューを考えながら、料理を手伝っていただいている。	献立は広告を見て利用者と一緒に考えて食材を発注し、利用者はそれぞれの力に応じて、刻み、炒め、味見、盛り付け、片付けなどを行っています。時には利用者にはアドバイスを貰ったり、おやつ作りを一緒に楽しんでいます。紅葉狩りや花見などで外出時に外食に行っています。誕生会は希望により出前や手づくりで好きな物を食べてもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が足りておらず、必要な方には、水分摂取チェック表を活用し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを促している。また、必要な方には、定期的に訪問歯科の方に治療にきていただいている。		

洛和グループホーム千代原口(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行なっている。	居室にトイレがあり利用者は夜間もトイレで排泄が出来ており、利用者の排泄パターンに合わせた誘導で失敗を無くすようにしています。失敗が多くなった方への支援には安易に紙パンツに移行せず、利用者にとって最良の方法を職員間で検討を重ねています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ日頃から乳製品を提供し、自然排便できるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿ったタイミングで入浴していただけるよう心がけている。	主に午後から入浴支援を行っており、寝る前や午前中、毎日などの希望に応じています。週2回は入れるようにし、拒否傾向の方は職員と一緒に近くの温泉に行ったり、清拭に変更する等、柔軟に対応しています。季節の菖蒲湯や柚子湯を楽しんだり、好みのシャンプーや石鹸を使用する人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、今までの生活習慣通りに休息していただき、居室も気持ちよく過ごしていただけるような環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬チェック表というものを作成しており、誰でも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとに役割を作り、体調不良等ではない限り、できるだけ取り組んでいただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、タイミングが合えば、少しの距離でもできるだけ、外に出るようにしている。	車椅子の方も一緒に日課として散歩に行ったり、買い物もドライブを兼ねて出かけています。喫茶店や外食を兼ねての外出、季節の花見等に行っています。住んで居た家や馴染みの場所に行くこともあります。家族にも声を掛け個別に馴染みの場所と一緒に歩くなどの支援を行っています。	

洛和グループホーム千代原口(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は小銭程度は所持しておられる。持っておられない利用者様でも外出時、希望があれば、購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、お電話やお手紙をしていたいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今までの生活習慣に違和感が無いような居室環境を考えている。	リビングには季節の花が飾られ、利用者の絵が展示されています。其々の居場所作りに配慮し、廊下にはソファやロッキングチェアが置くなど、くつろぎの場となっています。換気や清掃にも気をつけ、食事中は希望を聞きテレビを消して音楽を流すなどしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かな場所がお好きな利用者様や、独りになられるのがお好きな利用者様もおられるので、タイミング等を見て心地よく過ごしていただくように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人様、ご家族様に聞き取りをし、できるだけ馴染みのものを使っていただけるように働きかえている。	居室はトイレや洗面台、クローゼットが備え付けられており、入居時に馴染みの物を家族と一緒に過ごしやすいよう配置しています。筆筒や人形、ベッド、ソファなど馴染みの物を持ち込み、居室が設えられています。仏壇や遺影を飾りお茶や花を供える等、利用者が今迄の暮らし方に近い生活が出来る様に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができる事を職員がやっしまわず、できるだけ自立でしていただけるよう支援する。		